

# 2019年9月期 第1四半期 決算補足説明資料

.....

株式会社フィックスターズ  
(東証一部3687)

2019年2月8日



---

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があります。ご承知おきください。

# 目次

---

1. 2019年9月期 第1四半期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

# 目次

---

1. 2019年9月期 第1四半期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

# 2019年9月期 第1四半期決算発表サマリ

## ■ 全体

■ ハードウェアの大型スポット案件により過去最高売上高を更新

- ・ 売上高： **1,732百万円** (前年同期比 **+49.9%**)
- ・ 営業利益： **275百万円** (前年同期比 **+8.2%**)

■ 上振れ分は新規事業育成に向け積極投資

## ■ セグメント

### ■ ソフトウェア・サービス

- ・ 自動運転関連を中心に高速化事業が安定成長
- ・ SaaSや量子コンピュータ事業等の新規事業向け研究開発に積極投資
- ・ SaaS事業は今春の公開をターゲットに開発を継続

### ■ ハードウェア基盤

- ・ 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- ・ 画像処理向けストレージ・サーバの大型スポット案件が大きく貢献

# 決算概要：損益計算書

- ハードウェアの大型スポット案件により過去最高売上高を更新
- 上振れ分は新規事業育成に向け積極投資

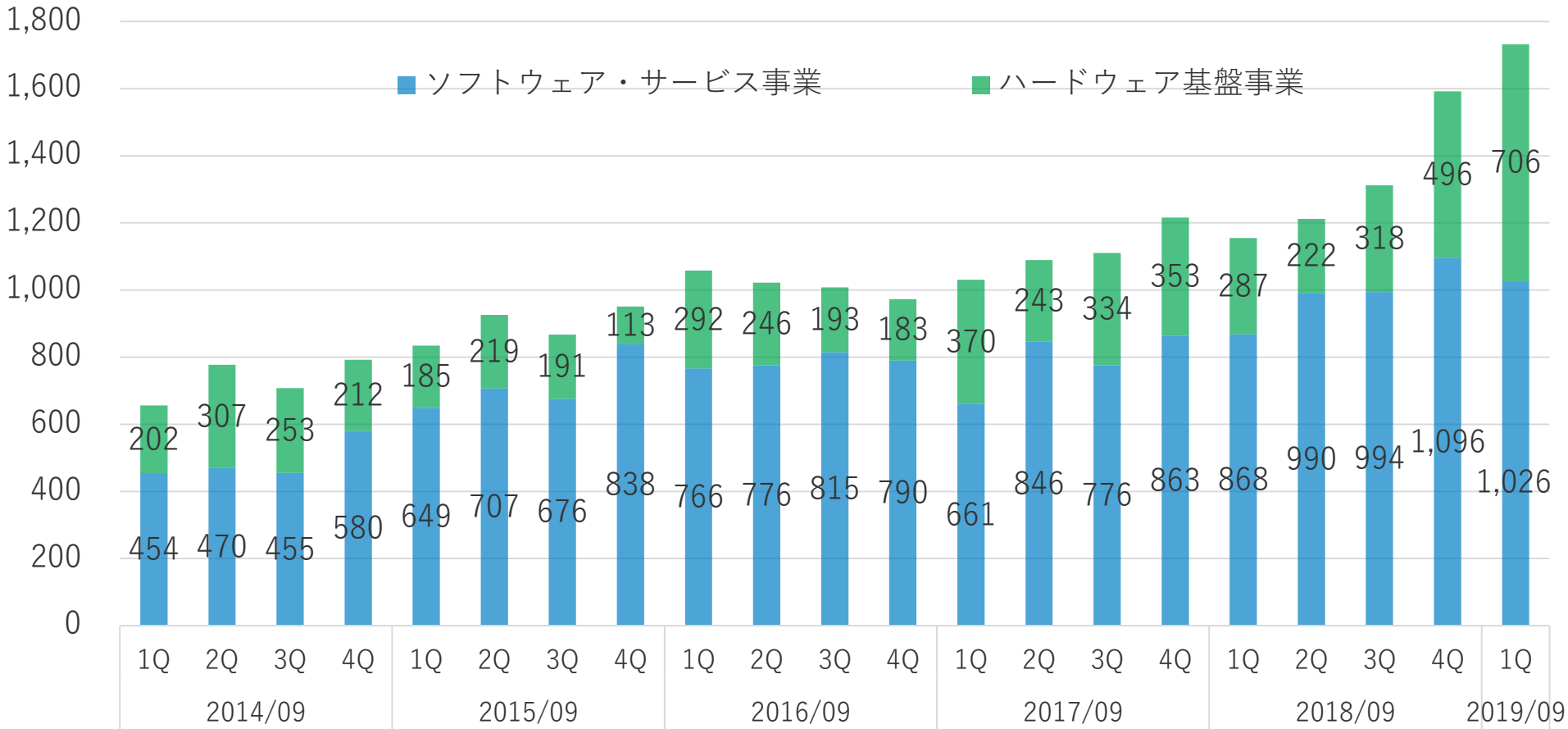
(単位：百万円)

項目	前第1 四半期累計	当第1 四半期累計	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期 業績予想
売上高	1,156	1,732	+576	+49.9%	6,000
営業利益	254	275	+20	+8.2%	1,173
売上高 営業利益率	22.1%	15.9%	▲6.1pt	-	19.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	179	183	+4	+2.5%	785
売上高 当期純利益率	15.5%	10.6%	▲4.9pt	-	13.1%

# 業績：売上高

■ リソース増に伴うソフトウェア・サービス事業の規模拡大に加え、ハードウェア基盤事業の大型スポット案件が大きく貢献

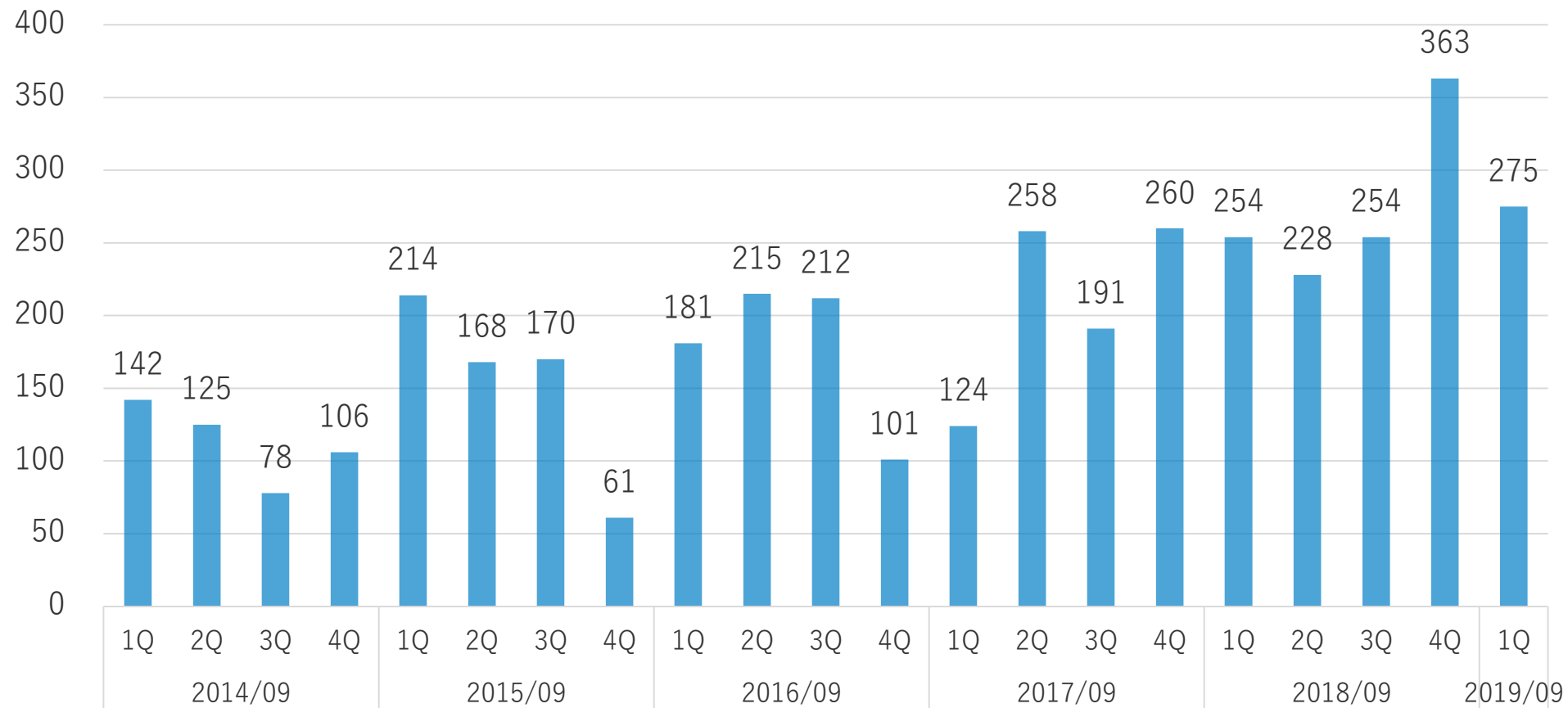
(単位：百万円)



# 業績：営業利益

- 新規事業向け積極投資を吸収しつつ、前年同期比で増益を達成
- 利益率の低いハードウェア基盤事業の売上増により利益率は低下

(単位：百万円)

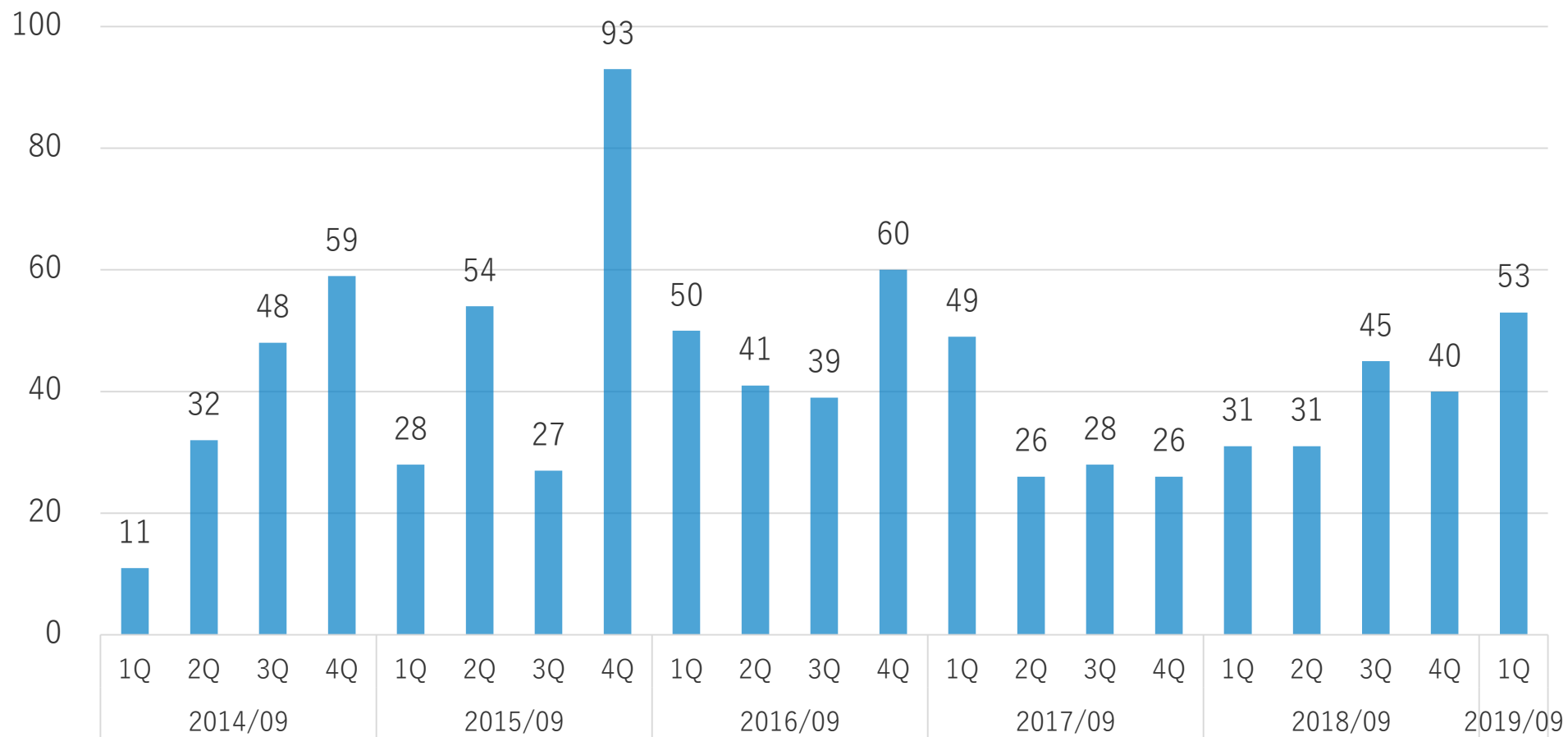




# 業績：研究開発費

- SaaS事業等の新規事業向け研究開発を継続
- 人件費や外注費を中心に年間を通して安定して使用予定

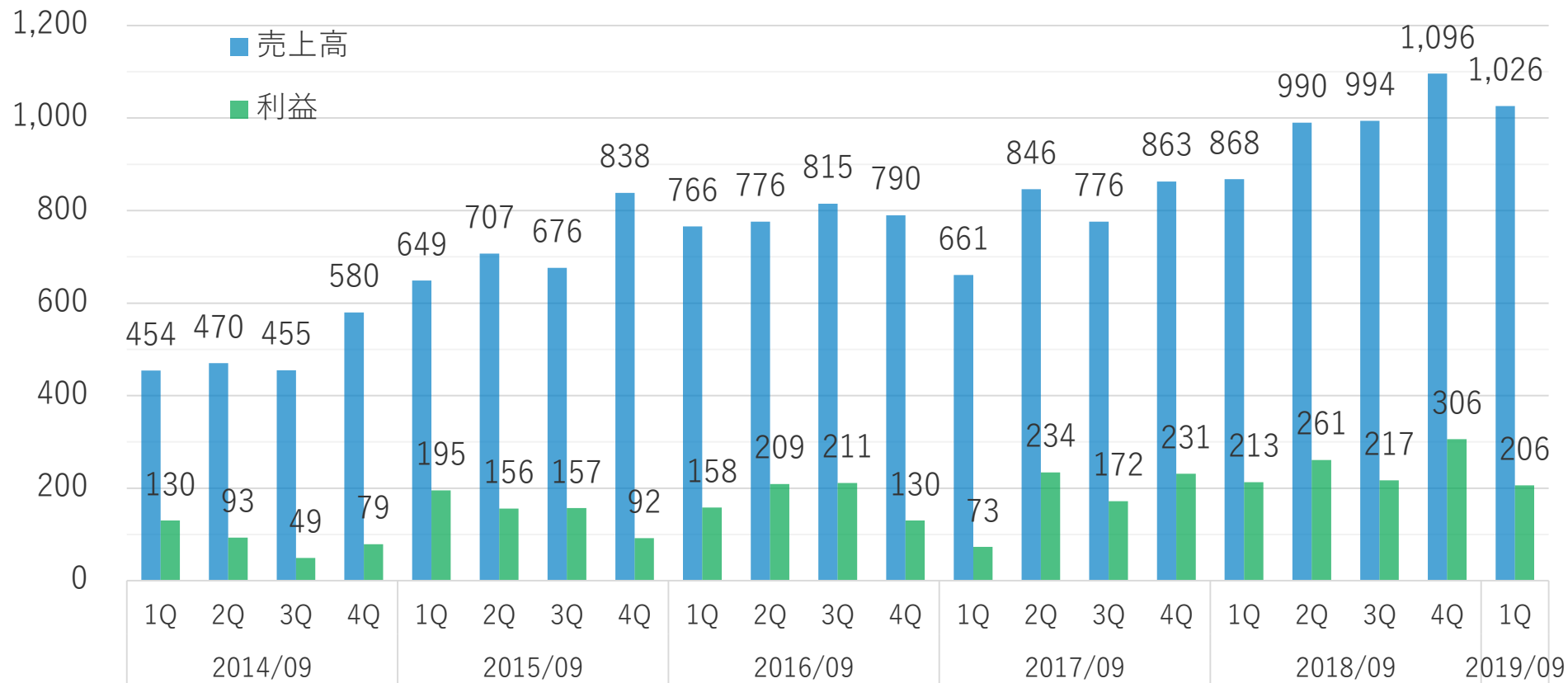
(単位：百万円)



# 業績：ソフトウェア・サービス事業

- プロジェクト規模の拡大を反映し、売上高は前年同期比増を達成
- 新規事業向け投資の増加により、利益は前年同期比減

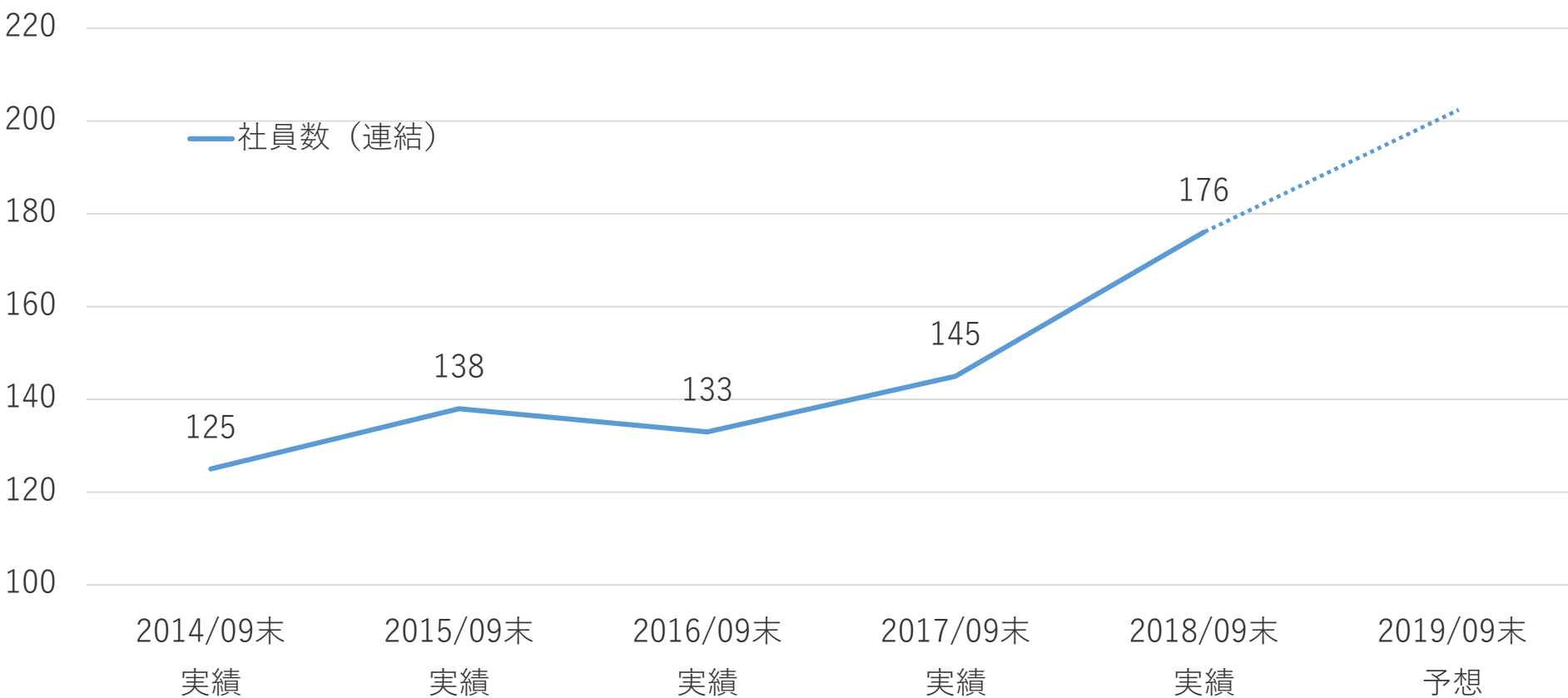
(単位：百万円)



# 業績：社員数推移

- 新卒を中心にエンジニア採用が順調に進み、社員数の増加を見込む
- ソフトウェア・サービス事業の拡大に安定寄与

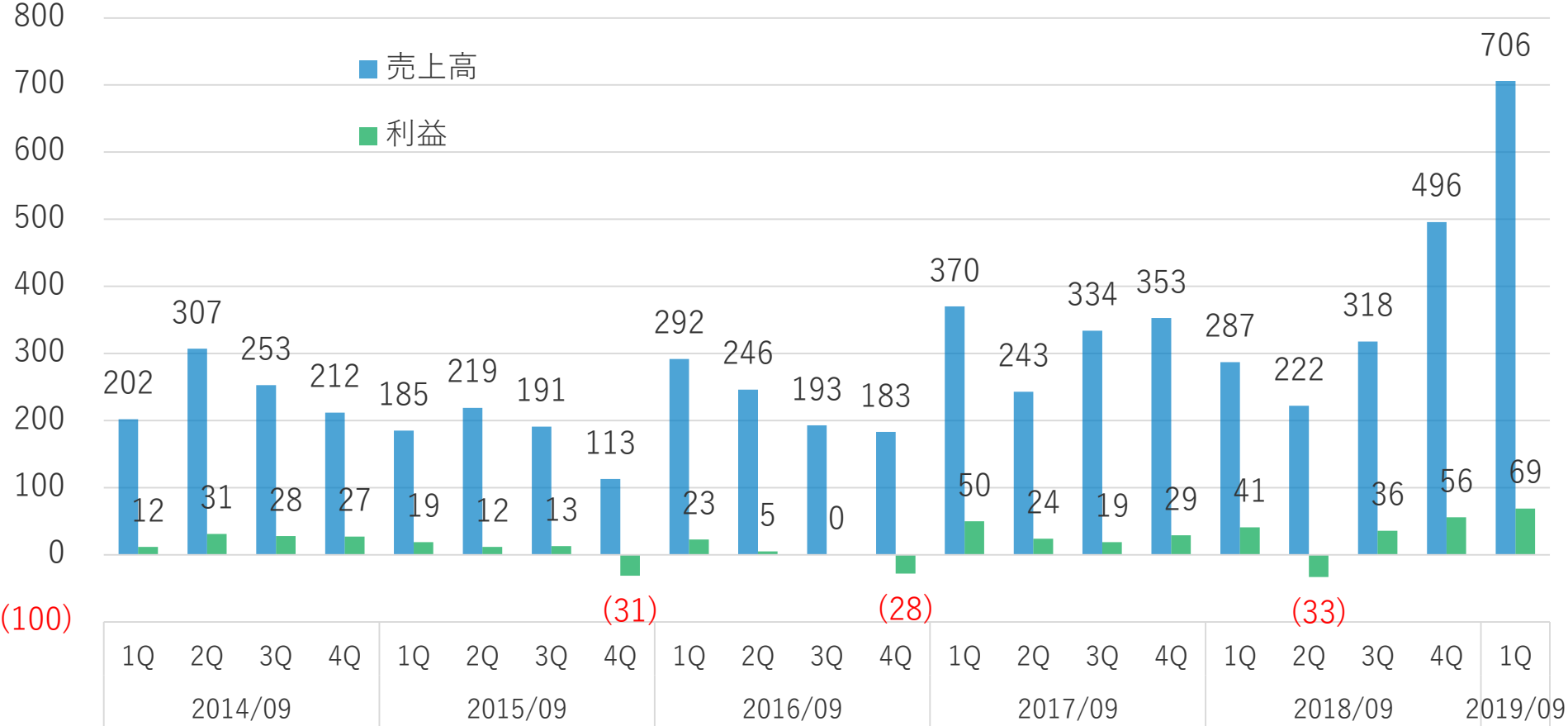
(単位：人)



# 業績：ハードウェア基盤事業

- 画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- 画像処理向けストレージ・サーバのスポット案件 4億円を計上し、過去最高の四半期売上高を達成

(単位：百万円)



# 開発事例：WHILL自動運転システム

- WHILL株式会社の「WHILL自動運転システム」の開発を、当社グループの株式会社Fixstars Autonomous Technologiesがサポート
- 運転者や周囲の歩行者の安全を担保する自動運転・自動停止機能に向け、ソフトウェア開発サービスを提供



WHILL社 次世代型電動車椅子



駅



空港



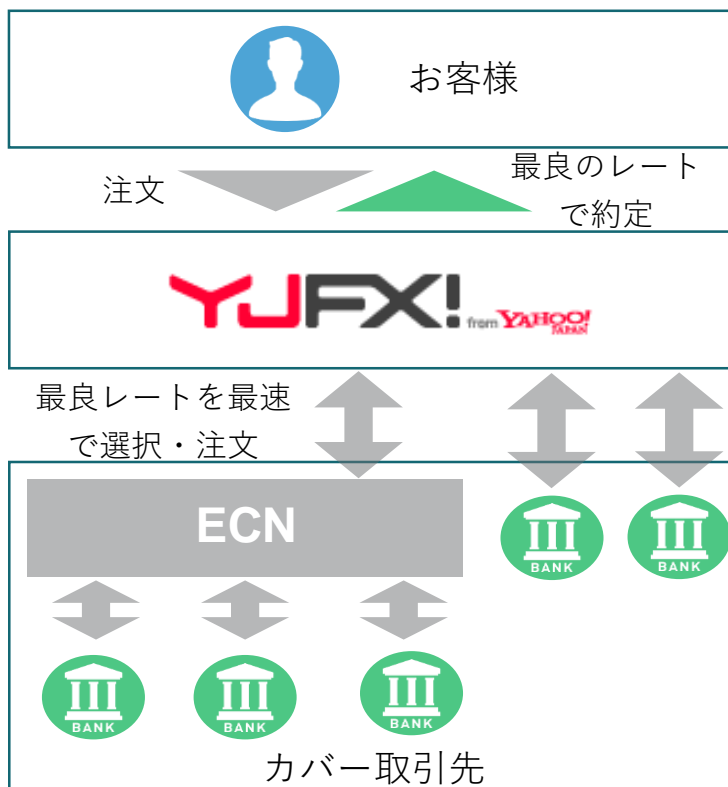
商業施設

## 「WHILL自動運転システム」

- ・ 空港、駅、商業施設等の大型施設での活用を想定
- ・ 簡単・安全なユーザビリティと自動停止機能、車椅子の回収の人手を減らす自動運転機能等を搭載することで、移動そのものの快適性向上とともに、施設運営事業者の運用費用削減に寄与

# 開発事例：ワイジェイFX社 FX取引

- ワイジェイFX株式会社のFX（外国為替）取引向け超高速取引システムの研究開発をサポート
- ソフトウェアとハードウェア両面からの開発サービスを提供し、ナノ秒単位の高速化に貢献



他の取引参加者が提示する条件のなかから、最良レートのものを選択



最良レートで約定するために他のプレイヤーに先んじて最速で注文



最速で注文を出すために半導体回路を含めたシステムレベルの最適化が必要に

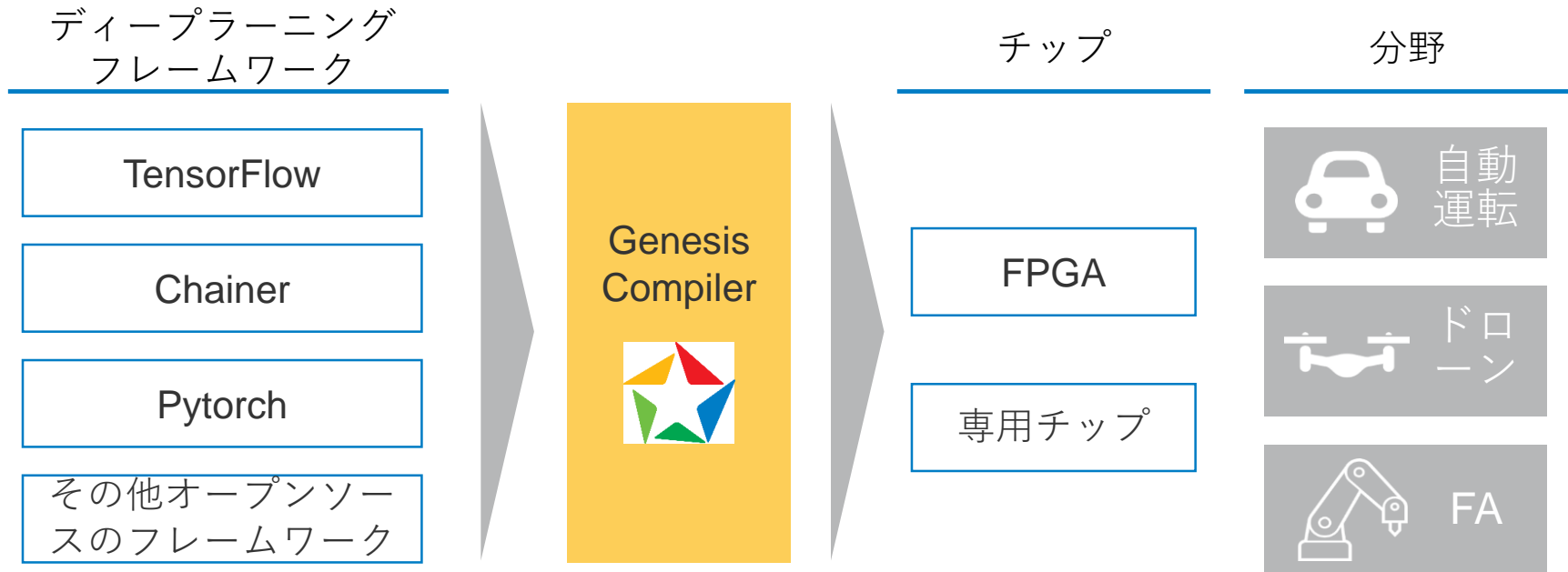


ソフトウェアとハードウェア両面からの高速化サービスを提供

※ECN: Electronic Communications Network（複数の取引参加者の注文を結びつける取引所のようなシステム） [www.fixstars.com](http://www.fixstars.com)

# トピック：エッジAIの提案でNEDOに採択

- 「エッジビジョンAIを超軽量化し短TATで実装する技術の研究開発」がNEDO事業に採択され、東工大、北大と共に研究開発を開始
- 自動運転やFA等、様々な分野で今後利用拡大が予想されるAIチップの、開発プラットフォーム構築を目指す



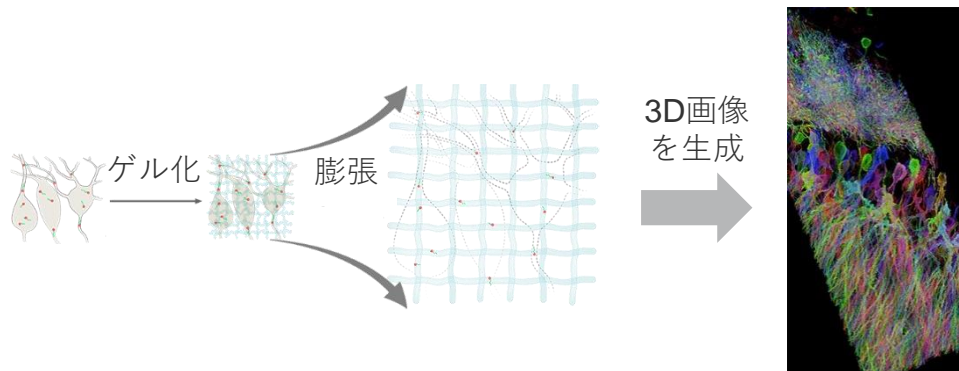
専用回路に落とし込めるよう、AIのネットワークモデルの超軽量化を可能に

当社独自技術”Genesis Compiler”を通して、アルゴリズムから専用回路への自動変換を可能に

# トピック：「ExM Studio」の公開

- エクспанション顕微鏡（膨張顕微鏡）の画像処理を高速化するソフトウェアパッケージ「ExM Studio (Expansion Microscopy Studio)」を公開
- 従来よりも高い分解能での観察を可能とするエクспанション顕微鏡法の高速化を通じて、ライフサイエンスの発展に寄与

## エクспанション顕微鏡法



- ☑ マサチューセッツ工科大学 Ed Boyden教授の提唱する新たな顕微鏡手法
- ☑ ポリマーを用いて生体試料そのものを拡大することで、従来の光学顕微鏡では実現しえない高分解能での組織の観察も可能に

## ExM Studio



- ☑ 3次元画像生成に必要な大量の画像データの高速処理を可能にしたソフトウェアパッケージ
- ☑ 従来のツールから比較して15倍の高速化を達成



# 目次

---

1. 2019年9月期 第1四半期決算説明
2. 2019年9月期 通期業績予想

# 2019年9月期 通期業績予想サマリ

## ■ 全体

- 売上高、営業利益ともに過去最高も、非支配株主に帰属する利益と税負担率の増加により最終利益では減益予想
  - 売上高： **6,000百万円**（前期比 **+13.7%**）
  - 営業利益： **1,173百万円**（前期比 **+6.6%**）
  - 親会社株主に帰属する当期純利益： **785百万円**（前期比 **▲ 4.6%**）

## ■ セグメント

### ■ ソフトウェア・サービス

- 自動運転関連を中心に既存事業による安定成長を実現
- 新規事業に積極投資し、**SaaS**等の新しい収益モデル構築を目指す
- 補助金を活用し、量子コンピュータ事業等の更なるシーズに投資

### ■ ハードウェア基盤

- 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが安定貢献
- ソフトウェア開発と組み合わせたトータルソリューションを通じて、スポット案件を積極的に獲得

# 2019年9月期 通期業績予想

## 2019年9月期 業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
2019年9月期 業績予想	6,000	1,173	1,172	785
2018年9月期 実績	5,275	1,100	1,113	823
増減率	+ 13.7%	+ 6.6%	+ 5.3%	▲4.6%

## 配当予想

	1株当たり 年間配当金	1株当たり 当期純利益	配当性向
2019年9月期 予想	7円	23円68銭	29.6%
2018年9月期 実績	7円	24円82銭	28.2%
2017年9月期 実績	25円	16円65銭	29.7%

※当社は2018年4月1日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益金額については、2017年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

※ 2018年9月期及び2019年9月期の配当金額は、分割後の株式数で算出しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の配当金額は、それぞれ35円であります。